

「日本語教育の参照枠」とCEFR-CVを理解する

「CEFR」「日本語教育の参照枠」という言葉はよく聞くけれど、まだちゃんと読んだことがない方、またはよく理解できていないとおっしゃる方も多いかと思います。

「日本語教育の参照枠」を教育の現場でどのように取り入れて実践すればいいのかというところまで、一足飛びに行きたいですが、事は表面的な技術論ではなく、人によっては「言語教育観」の変化を伴うこととなります。

これまでいわゆる「文型積み上げ式」でドリルを中心にやってきたという先生方、私もそうでしたが、文型がスラスラ言えても、運用能力は保証できませんね。

学習者は日本語でどんなことをしたか、「参照枠」は文型練習を全否定するものではありませんし、それが必要な場合もあるにせよ、それだけでは今の日本語教育で活躍するには万全ではありません。

「日本語教育の参照枠」が参照している「CEFR」の背景にある欧州評議会の理念をきちんと見ておきたいと思います。

またCEFRとCEFR-CVの特徴、それが日本で採用された意味や意義を再考すると共に、従来の日本語教育との異同を考えます。特に「言語教育観」に着目する予定です。また学習者の目的によって「留学」「就労」「生活」分野に分ける必要性と、その目指すところについても一緒に考えたいと思います。具体的な教育実践の例も、時間が許す範囲で紹介できればと思います。

日時

2025年10月18日(土) 10時30分～12時

講師

真嶋 潤子氏(大阪大学名誉教授、国際交流基金
関西国際センター所長)



<プロフィール>

ジョージア大学大学院言語教育学科外国語教育学専攻(Ed.D. 教育学博士)。大阪大学名誉教授。大阪外国語大学助教授、大阪大学大学院言語文化研究科教授等を経て、現在、独立行政法人国際交流基金関西国際センター所長。専門は日本語教育学、外国語教育学、言語教育政策。長年留学生教育と日本語教員養成に携わる。文化庁文化審議会国語分科会日本語教育小委員会にて「日本語教育の参照枠」にも関わってきた(2024年3月まで)。日本語教育の発展への貢献に対して、2024年12月に文化庁長官表彰を受けた。(https://x.gd/u64Fu)

<著書>

『技能実習生と日本語教育』(編著、大阪大学出版会、2021年)、『CEFRの理念と現実 現実編 教育現場へのインパクト』(西山教行、大木充編)「第4章 日本語教育におけるCEFRとCEFR-CVの受容について」(分担執筆、くろしお出版、2021年)、『母語をなくさない日本語教育は可能か一定住二世児の二言語能力』(編著、大阪大学出版会、2019年)、『CEFR-CVの「仲介」と複言語・複文化能力』(共著、凡人社、2024年)、『外国人受け入れへの日本語教育の新しい取り組み』(共著、ひつじ書房、2025年)ほか多数。

日本語教師ネットワーク機構 活動方針

令和6年4月1日に日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律(令和5年法律第41号)が施行されました。日本語教師を取り巻く環境は現在大きく変化しており、社会的役割はますます重要になってきています。当機構では、変化の激しい日本語教育の世界を広い視野で見つめ直し、これからの日本語教師に必要な情報をお届けしスキル・資質・能力を伸ばすためのヒントをご提供致します。

- ◆主催:NPO法人国際教育振興協会 日本語教師ネットワーク機構(<https://www.kokusai-npo.or.jp/wp/>)
- ◆協力:株式会社 凡人社
- ◆参加費用:無料
- ◆申込方法:2025年10月16日(木)17時までに下記URL、もしくは右QRコードからお申込みください。
【セミナーお申込みURL】<https://forms.gle/7pNRGQCc7wILMcv7>

※当機構の会員以外の皆様に参加をご希望される場合は、当機構への会員登録が先ず必要となります。

<https://forms.gle/rKfeBu3c2DgSAUXc8>

